

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

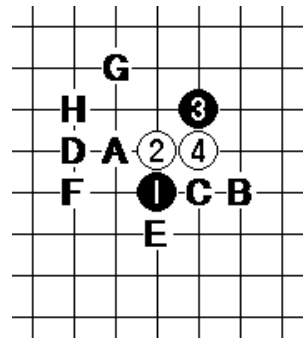
● 第71回 ●

■ 溪月多題打ちの研究①

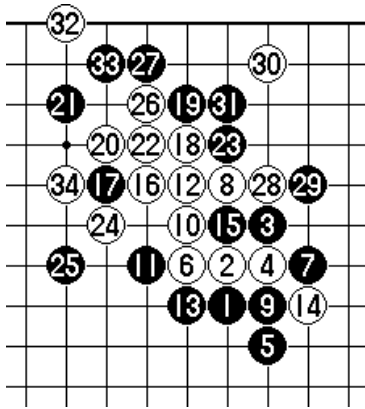
今回は、苦手な溪月多題打ちの研究をしていこう。

実は連珠世界にチーム戦の講評を書いているが、その関係で溪月・峽月の多題打ちも講評することになった。そのため、最近研究し出したのだが、その補足という意味でもここでその一部を披露したい。

溪月は通常八題を指定することが多いが、もちろん白4によって黒の打ち方が違ってくる。一番普通の白4は次の白4だろうが、それに対する黒5は通常図のようなAとHを選ぶのが一般的だ。「こんなに覚えられないよ」と嘆く方も多いと思うが、こういうのは理屈がわからないと体で覚えられない。

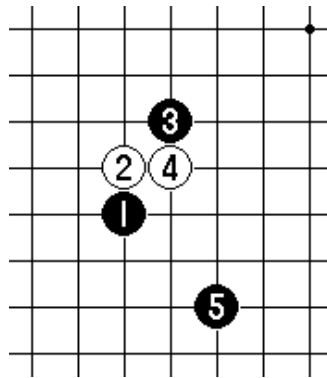


理屈を知るためには、異着を研究した方が早い。異着を研究することにより、コツがわかってくる。では、まず打ってはいけない場所を調べてみよう。

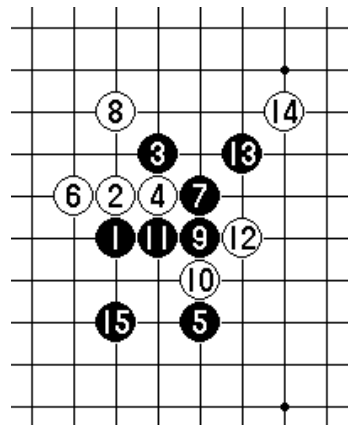


この黒5は白6、8と構えられて、黒5の位置が良くない。この6、8の手は他の珠型からもよく出る形

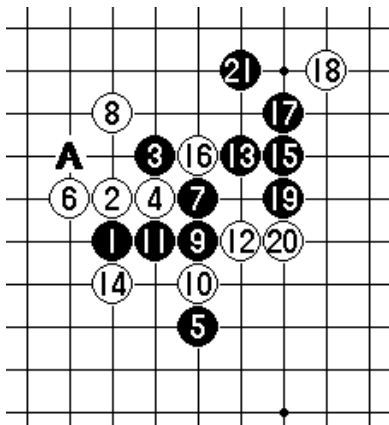
なので、覚えておいて損はない。黒9は懸命の頑張りだが、白10とミセるのが妙手で、以下白勝ちになる。では、もう一路離れたこの黒5はどうだろうか？



こんなのは簡単に白勝ちだ！と思うのは無理ない。何しろ流星の位置である。この手に対して同じように白6、8と打って問題ないと思いきや、黒5の位置が何と都合よく黒9と三を打てる位置にある。続けて黒11と二を引くとなやから黒石がつながってくる。黒13と引き、白14の止めなら、黒15が必勝手だ。白12の反対も黒勝ちになる。



ということ、白14は反対止めとなるが、今度は右上で黒が勝てるかどうかの勝負となる。いろいろ調べた結果、次図のように黒21と打つのが絶妙手となる。

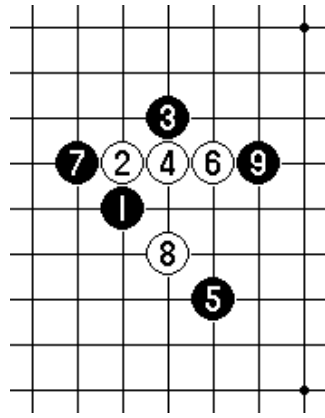


この勝ち方は、白8がAあっても変わらないので、白

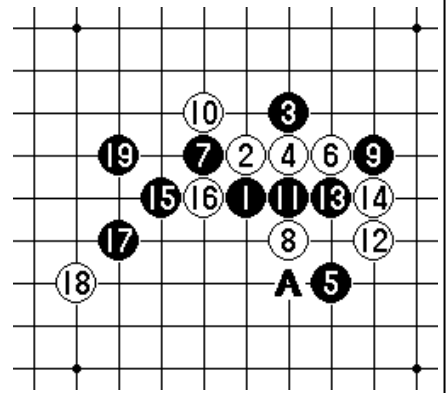
8をAと打っていても同じ結果になる。

うくん、単純に白勝ちと
思っていたが、どうやらそ
うではないようだ。白も本
気を出して防ぎに行かなけ
ればならなかった。

では、戻って考えてみよ
う。防ぐなら、白6と引く
のが有力だ。ただ、黒に幸
便に7、9と両側から叩か
れると、白防ぐのに困る。

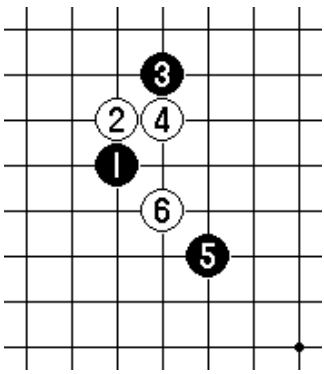


白10からは防ぐだけな
らいろいろあり、例えば白
10・12なら黒13から19ま
で組まれてしまう。これ
で黒勝ちという訳ではないが
少なくとも白が望ましい形
ではないだろう。

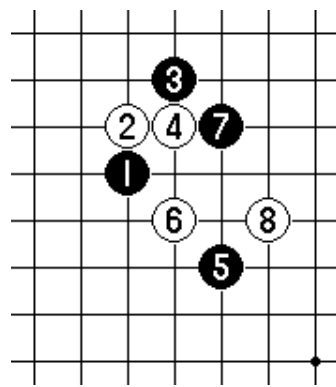


もちろん、白12を13なら
黒12に打たれてしまうの
で、これも白面白くない。
白10を11なら、黒Aと打つ
要領だ。

ならば、ともう一度局面
を眺めてみる。黒5が流星
の位置なら、白6と無理矢
理長星に戻すのはどうか。



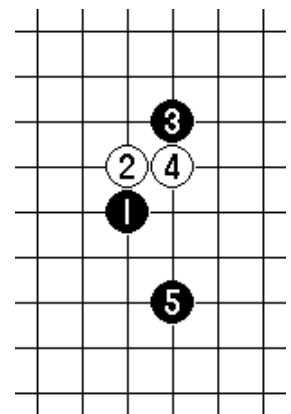
こうなるともう、初型溪
月とは思えない。白2、黒
3の交換がどう影響を与え
るのだろうか？



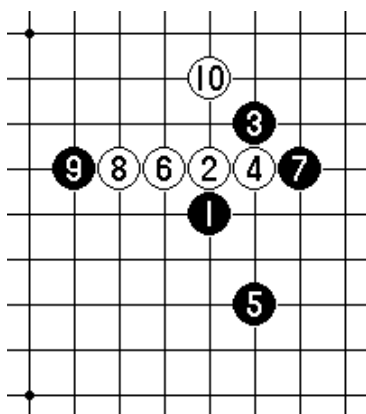
黒7と打つのが普通だろ
うが、白8と打たれるのが
気になる。黒から打開する
のが難しい展開になりそう
だ。というところで、黒7は
8かその一路上に打つのだ
ろうか？

黒5はこの辺でお茶を濁
し？他の黒5も調べてみよ
う。次図の黒5も当然考え
られる手で、この5が成立
するなら嵐月からも行ける
ことになる。このように、
異着を調べることで他の珠
型の変化を調べることに

なる。



調べてみると、この手も
すぐに負けになる訳ではな
さそうだ。



例えば白10までなら、白
有利だろうが黒も戦えない
ことはない。とすると、溪
月この白4は十題も可能な
のだろうか？次回は別の白
4について調べてみたい。